

授業科目 基礎看護学実習 I

【担当教員名】 石塚 敏子、佐藤 信枝、川崎 久子、 櫻井 理恵		対象学年	1	対象学科	看護
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 看護の対象とする人々の生活および看護の実際を理解する。さらに、看護を必要としている人との関わりを通して、援助的人間関係を理解し、その人のニーズに応じた日常生活援助の方法を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 入院患者の日常生活とその環境について知ることができる。(I-a) 2. 入院患者に行われている看護について知り、看護の役割を考慮することができる。(I-a) 3. 対象者と援助的人間関係を築くことができる。(I-b) 4. 対象者のニーズを理解することができる。(I-b) 5. 対象者の安全、安楽に配慮し、日常生活の援助が経験できる。(I-b) 6. グループ運営に積極的に参加し、実習の学びを発展させることができる。(I-a、I-b) 7. 看護をする人として、適切な態度をとることができる。(I-a、I-b) 8. 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。(I-a、I-b)					
回数	授業計画・学習の主題		SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
	1. 学内オリエンテーション 2. 病院・病棟オリエンテーション I-a（見学実習） 1) 入院患者の日常生活とその環境について知る 2) 入院患者に行われている看護について知り、看護の役割を考慮 3) カンファレンス 4) 課題レポートの作成 5) 実習の評価、課題の明確化 I-b（病院での実習） 1) 一人の患者を受け持ち実習を行う 2) 対象者の基本的ニーズを理解し、日常生活の援助を実施する 3) 実施した援助のふり返り 4) カンファレンス 5) 課題レポートの作成 6) 実習の評価、課題の明確化			実習グループを編成し、各実習施設で実習を行う（基礎看護学全教員）	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		KAN-TAN 看護の実習マナー	野崎真奈美、田中美穂、蜂ヶ崎令子	医学書院	2009・1,000円
参考書					
その他の資料		基礎看護学実習 I 要項 看護学臨地実習共通要項			
【評価方法】 実習内容：80% 課題レポート：20%		【履修上の留意点】 ・見学実習である I-a（前期）と I-b（後期）に分けて実施する。 ・対象者の安全の確保に十分配慮する。 ・対象者のプライバシーの保護など、倫理的に十分配慮する。 ・援助的人間関係論、日常生活援助技術、フィジカルアセスメントについて、事前に十分学習する。 ・原則として実習オリエンテーションを受けなければ、実習には出席できない。			